

アイランダー高校生サミット2024開催報告

全国の一八の離島高校から五六人が参加

本誌編集部

島の暮らしをより良く
するための「〇〇革命」

本財団では、包括連携協定を結んでいる大正大学と共同で、「アイランダー高校生サミット2024（以下、サミット）」を二〇二五年一月二六日（日）に開催しました。

サミットは、全国の離島の高校生をオンラインで結び、それぞれの島が持つ可能性や島同士で交流することの意味などの議論を通して、自分たちが住む島を盛り上げるためのアイデアなどを出すとともに、島に対する愛郷心の醸成を目指すものです。

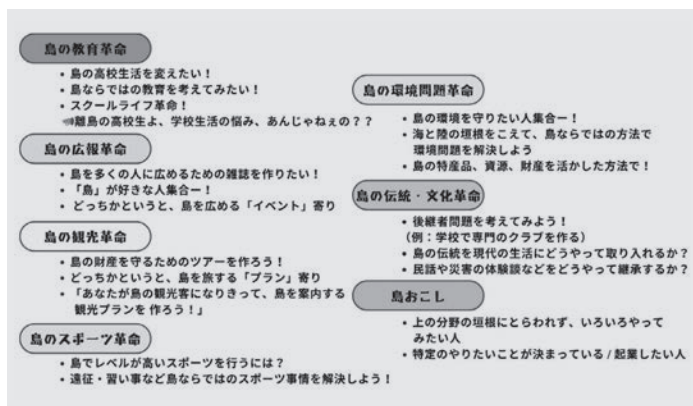
二〇二二年度の試行を経て、今回で二回目の開催となったサミットは、「合縁島縁えんどうえん」つながりよう、つながろう、私たちの離島」をテーマに、全国八都道県の一八校から集まった離島高校生五六人が、メンター役となる大正大学の学生とともに、離島の魅力や離島ならではでの悩みなどを共有しながら、島おこしにつながるプロジェクトやソリューションについて、活発に話し合いました。

議論のキーワードは、島の暮らしをより良いものに変えていくための「〇〇革命」。高校生たちは、「教育」「広報」「観光」「スポーツ」「環境問題」「伝



島おこしにつながるアイデアについて話し合う参加者たち。

統・文化」「島おこし」の議題ごとに七つのチームに分かれ、離島の現状を分析し、課題を解決・改善していくための具体的な取り組みを提案しました。



オリジナリティあふれる 成果発表

「島の広報革命」グループは、島の方々が古くから親しみ、生活の一部であり誇りにもなっている「郷土料理」に着目。班のメンバーが住むそれぞれの島の郷土料理を集めた「離島料理フルコース」を作り、料理の提供や商品化して通信販売することで注目を集めるとともに、島の魅力の発信にもつなげよ

■参加高校一覧

北海道奥尻高校◎、東京都立新島高校、同小笠原高校、広島県立大崎海星高校◎、同広島敬智学園高校◎、島根県立隠岐島前高校、愛媛県立弓削高校、長崎県立奈留高校、同五島高校、同五島海陽高校◎、鹿児島県立古仁屋高校、同徳之島高校◎、同与論高校、鹿児島城西高校※、屋久島おおぞら高校※、沖縄県立宮古高校◎、同八重山高校◎、同泊高校※

◎実行委員のいる高校 ※通信制高校および離島の高校ではないが特別参加

うと提案しました(次頁図・上)。

一つの島だけではなく、全国の島々の選りすぐりの料理が詰まった、まさに唯一無二のフルコースに、ほかの参加者からは「コースに出てくる」どの料理もおもしろそう!「豪華でボリュームがあって、しかも値段が安すぎ(笑)」「いろいろな島の料理が食べられて魅力的」などの意見が寄せられました。

「島おこし革命」グループは、離島の現状を「島と島が一体となって活動できていない」「地元住民視点の情報が得にくい」「島の注目度、人気度の格差がある」などと分析。まずは、観光分野でこれらの課題を改善しようと、島同士の情報交換、島の住民と観光客などをマッチングする全国の離島情報を取りまとめたウェブアプリ「re:island」、離島に特化したホテルチェーン「Island²」、島人との交流コースなど既存の観光地にとらわれない、また来たい“また会いたい”を提供する旅行プ

ラン「I.Land」の造成などを、収益の活用法と合わせて提案しました(左図・中)。

ほかの参加者からは「全国の島々の、住民しか知らないようなちょっとディープな情報がまとまっているサイトは面白い」や「全国のホテル『I.Land²』に設置されたスタンプを集めたら特産品のプレゼントがもらえる」と嬉しい

などの感想があげられました。

このほかにも「#(ハッシュタグ)離島」でつながった高校生たちだからこそ提案できるオリジナリティあふれるプレゼンが相次ぎました。その内容は豊かさもあることながら、注目すべきは、自分たちの提案を実現していくために、「私たちができること」として、自分ができることを発表したことです

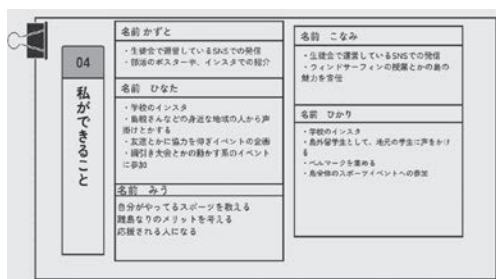
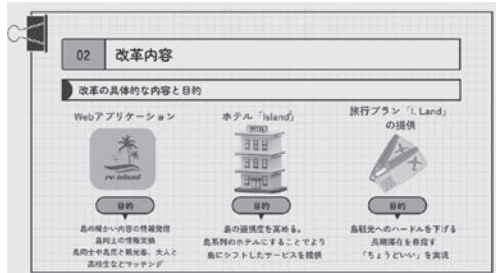
(左図・下)。今後の高校生たちの活躍を期待させるものばかりでした。

他の島の高校生との交流を評価

サミットの全プログラムを終えた後に実施したアンケートでは、多くの参加者から「いろいろな島の高校生と交流できて良かった」「自分の島のことを考える良い機会になった」「島を良くするためのアイデアを皆と考えられて楽しかった。また参加したい」など、サミットへの参加がプラスになったとす

る声が寄せられました。

じつは、サミットのプログラム作成や広報活動、全般的な企画・運営は、第一回目から離島の高校生と大正大学生による実行委員が担っています。今回も九人の高校生、四人の大学生の計十三人の実行委員が全体のマネジメントなどを行いました(実行委員名簿など詳細は本誌二七九号参照※1)。





サミットの概要を説明する田中晴樹委員長。

実行委員長を務めた田中晴樹さん（大正大学四年）は、「アイランド高校生サミット」には、試行段階の第〇回から携わっているので、今回で三回目。初めて実行委員長という立場で一年近く実行委員の仲間たちとプログラムを考えてきました。今日、実行委員も参加した高校生たちもサミットを笑顔で終えることができ、とても嬉しいですね」と、サミット成功の手応えと喜びを語りました。

ほかの実行委員たちも「私は、みんなを引っ張っていくことや自分の意見を言うことが苦手でした。サミットで自分のことを受け入れてくれる仲間たちと出会え、たくさん話すことができ、大きな成長につながりました」（花田光さん、広島教習学園高校）、「毎月・毎週のように、実行委員会ですミットを面白くするためのアイデアを考えてきたので、今回の成功がとても嬉しいですね。ただ、委員のみんなと会えなくなってしまうのがとても寂しいですね」（板垣秋佳里さん、北海道奥尻高校）など、サミットに対する思いや仲間への感謝の言葉を口にしました。

二〇二五年度も開催予定

日本離島センターでは、島に対する思いを育み、将来の島づくりを担う人材の育成に向け、二〇二五年度もアイランド高校生サミットを開催する計画です。開催時期などは未定ですが、今

回と同様に離島の高校生と大学生による実行委員会を組織し、学生・生徒たちが主体的にサミットの企画・運営を担う形で進めていく予定です。

詳細は適宜、主催者のウェブサイトなどでお知らせしていきますので、サミットに関心のある離島の高校生、親御様、教育関係者の皆様は、ぜひご参加・お問い合わせください。また、実行委員としてサミットの運営に関わりたい！という離島高校生の立候補もお待ちしております。

なお、過去のサミットの模様は、本財団のウェブサイト（※2）から視聴可能なのでぜひご覧ください。（森田）

アイランド高校生サミットに関する

ご相談・お問い合わせ

（公財）日本離島センター

03・3591・1151（森田）



※1



※2